

## 28P-am002

マオウの国内栽培に関する研究 I 地上部の生育およびアルカロイド含量の月別および年次別変化

○飯田 修<sup>1</sup>, 菱田 敦之<sup>1</sup>, 渕野 裕之<sup>1</sup>, 矢原 正治<sup>2</sup>, 新留 美穂子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>基盤研・薬植セ, <sup>2</sup>熊本大学院薬)

【目的】マオウの国内生産および栽培技術を確立するため、2002年～2005年にかけて栽培試験を行い、地上部の生育およびアルカロイド含量の月別および年次別変化を検討したので報告する。

【供試材料】薬植セ・筑波研究部系統番号 Ep.13 (1956年アメリカより種子で導入した *Ephedra distachya*) を供試した。

【栽培方法】[育苗]2002年4月2、4日に横走根を調製し、1年間苗床で育苗した。

[定植]2003年3月24、25日、筑波研究部の圃場に、条間70cm、株間40cm、1株1本植えて定植した。施肥量は基肥として、10アール当たり堆肥2000kg、化成肥料(8-8-8)31kg、過リン酸石灰15kg、苦土石灰50kg、追肥として化成肥料(8-8-8)31kg/10アールを適宜施用した。

[収穫]2003年6月から2005年12月まで、毎月中旬に4個体ずつ採取した。採取した試料は、ただちに60℃温風で3～4日間乾燥した。

[アルカロイド含量の定量]エフェドリン、プソイドエフェドリンの含量の分析は、日本薬局方に準じて行った。

【結果】地上部は定植後2年目の秋にはほぼ条間を覆う程に成長し、収穫が十分可能であった。定植後3年目には圃場内を歩けないほどに繁茂した。定植後1年目、2年目および3年目の各12月における1株当たり地上部乾燥重量は、それぞれ46.1±32.0g、264.1±49.5g、453.2±151.0g(4株平均値)であった。アルカロイド含量に関する詳細なデータについては学会で報告する。